

ホップ栽培半世紀を祝い乾杯 「とれたたてホップ」初飲み会

遠野産ホップを使ったキリンビール「一番搾り」とれたたてホップ生ビール 初飲み会は10月28日、あえりあ遠野で開催されました。参加した関係者ら350人はできたてのビールを味わいました。

今年には遠野ホップ農業協同組合とキリンビール(株)とのホップ契約栽培50周年、同商品発売10周年の節目の年。本田市長は「ホップ農家とキリンビール様の熱意が紡いだ50年。互いの信頼関係をより強くし、今後もおいしいビール作りを励んでいただきたい」と激励し、横田乃里也仙台工場長は「例年よりフルーティーな味わいに仕上げた。ホップ農家の皆さまには私たちが一緒に時を刻み続けてほしい」と願いを込めました。このほかホップ栽培に尽力した農家の代表2人に感謝状が



50周年を祝い乾杯する参加者

贈呈され、佐々木悦男(遠野ホップ農業協同組合長)が「これからもおいしいビールのために、農家が丸となって良質なホップ栽培に努める」と力強く宣言しました。

過去最高の落札で会場に活気 本州唯一の乗用馬市場開催

本州で唯一の乗用馬市場、第40回遠野市乗用馬市場は10月29日、遠野馬の里で開催されました。全国から参加した購入者たちは馬場を周回する馬をじっくりと見極め、入札していました。

今年には市内外から31頭が上場され、このうち26頭が落札。最高値は市畜産振興公社のエクサラ・ダンディ号(3歳)



最高額での落札で活気にわく会場

で、同市場で過去最高額の335万円でした。合計取引額は2356万円(前年度比44.8%増)で、震災や不景気の影響で低迷していた市場の本格回復に、関係者は喜んでいました。菊池榮喜市乗用馬生産組合長は「期待以上の盛況ぶりです。今後も質の高い乗用馬を生産したい」と決意を新たにしました。

時代に合う組織の在り方探る 地域コミュニティーを検証

少子高齢化時代に即したコミュニティーのあり方を探る「遠野市進化まちづくり検証委員会(山田晴義委員長、委員7人)の第3回委員会は11月8日、市役所とびあ庁舎で開催されました。参加した市職員や各種団体の代表者ら26人は、望ましいコミュニティーのあり方を探りました。

前回の委員会での意見を踏まえ、地区センターなどの現地視察や6地区の自治会長との意見交換などを実施。検証委員会では▽各団体が縦割りではなく、総合的に活躍できる組織への転換▽拡大から縮小のためのプログラムづくり▽地域ビジョンづくりのための議論を―などの意見が出され、山田委員長は「一つの地域ですべてをまかなえる『フルセット体制』は現状では難しい。組織同士を組み替えて



新たな自治会のあり方などに意見する委員

役割を位置付ける必要がある」とまとめました。同委員会は来年10月まで検証を続け、平成27年1月に提言をまとめる予定です。

学校給食費に係る アンケート調査の中止と 調査のお詫びについて

平成25年11月21日に、市内小中学校に通う児童、生徒の保護者の皆さまへ学校給食費に係るアンケート調査を実施しました。この調査は保護者の皆さまからの意見を参考に、来年度からの給食の内容や費用などについて検討するために行ったものです。

しかし、アンケートの文中に不適切な表現が含まれていたため、あたかも学校給食費の値上げを前提とした質問内容になってしまい、保護者の皆さまへ大きな不安を与えてしまいました。このことから、同アンケート調査を即刻中止することとし、保護者の皆さまには誤解を与えてしまったことへのお詫びと、アンケートを中止する旨のお手紙を送付させていただきました。

今回のような不適切な処理があったことをご報告するとともに、深くお詫びいたします。

喜善を再評価し未来へつなぐ 遠野文化フォーラムを開催

遠野の豊かな文化資源を生かしたまちづくりを考える「遠野文化フォーラム」(市・町)遠野市教育文化振興財団共催)は11月3日、あえりあ遠野で開催されました。

資源を活用したまちづくりや国際交流の可能性について理解を深めました。

本年は、本市出身で「日本のグリム」と呼ばれる昔話研究の先駆者、佐々木喜善の没後80年を記念し、グリム兄弟が育ったドイツ・シュタイナウ市のグリム兄弟博物館長らを招待。フォーラムでは遠野文化奨励賞の表彰式や遠野遺産と語り部の認定証交付式のほか、学識者らによる講演会やシンポジウムなども行われ、参加した200人は文化

的資源を活用したまちづくりや国際交流の可能性について理解を深めました。遠野に関する優れた公募論文に贈られる遠野文化奨励賞は川崎瑞穂さん(25) 神奈川県 深澤優美さん(22) 埼玉県 玉泉が受賞。講演会では、グリム兄弟博物館のクリンク館長が「グリム兄弟博物館の経緯と展望」と題して講演し、グリム兄弟について趣向を凝らした展示を行なっている同館の概要について説明しました。また、クリンク館長はシュトラウホ同市長の親書を本田市長に手渡し、「互いに文化を大切にする姉妹都市として、両市の関係を発展させていきたい」と今後の末永い交流を約束しました。



親書を読み上げるクリンク館長(中央)

2日夜は、とおの物語の館内の遠野座で前夜祭「幻想の作家・佐々木喜善―朗読の夕べ」が開催され、遠野文化研究センター顧問で小説家の高橋克彦さんらを招いた朗読会や鼎談なども行われました。

高館の園が創立20周年



同施設のさらなる発展を誓う関係者

社会福祉法人ともしり会(君崎敬孝理事長)が運営する障がい者支援施設「高館の園」(宮守町鱒沢)の創立20周年記念式典は11月17日、あえりあ遠野で開催

されました。施設関係者や市職員など100人が出席。君崎理事長は「利用者やその家族の暮らしを第一に運営してきた。今後もその理念を基に活動したい」と決意を新たにしました。式では施設運営に協力してきた病院やボランティアを表彰するなどして節目を祝いました。

同施設は平成6年4月に開所し、これまで市内外の108人が利用。地域住民と協力し定期的に祭りなどを開催し、鱒沢地区の地域づくりにも貢献しています。

小友小の開校30周年を祝う



同校30年の節目を祝う関係者ら

小友小学校(佐藤寛校長、児童49人)の開校30周年を祝う記念式典は11月2日、同所で行われました。式典では感謝状の贈呈や、全校児童による表現活動「小友の話っこ聞きたいな」が披露され、参加した歴代校長やPTA会長など124人は節目を祝いました。

同校は昭和58年に旧小友、鮎貝、鷹鳥屋、長野の4小学校が統合して誕生し、これまで637人の卒業生を送り出しています。